
DOG DAYS ~ 勇者少女の物語 ~

エクセル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

DOG DAYS ～勇者少女の物語～

【Nコード】

N0004X

【作者名】

エクセル

【あらすじ】

敗戦続きの異世界フロニヤルドにある一つの国、ビスコッティ戦^{いくさ}に勝つためにビスコッティの姫様は禁じられた隠し手の「勇者召喚」を使用。呼び出されたのはアスレチック競技が大好きな平凡な金髪の1人の少年と・・・・・・1人の魔法少女だった・・・・

DOGとなのはのコラボオリジナル作品

プロローグ（前書き）

さあさあ、楽しい時間が始まるよ

プロローグ

そこはとある異世界の物語。

戦いくさという名のイベント興業が行われる二つの国

敗戦が続く片方の国のお姫様は、隠し手である「勇者召喚」を使用した。

それが始まりであつた……

これは一人の勇者の少年ともう一人の勇者となつた少女の物語

異世界、地球の日本に住む平凡な少年。そしてもう一人の少女は偶然にも「魔法」という力に出会い、それを手にした

そして、大切な友達……少女は友達となつた女の子との再会を胸に今、元の生活を過ごしていた

その少女の名前は「高町なのは」

勇者誕生！！そして魔法少女！？（前書き）

「勇者シンク、ただいま見参ッ！！」

勇者誕生！！そして魔法少女！？

それは時間を少し遡る

ー日本 紀ノ川市ー

「よっし、バックは持ったし・・・空港までレッツゴー！！」

この少年の名前はシンク・イズミ

外国出身者、外国人ハーフが通う学校の中学生。金髪の髪と蒼い瞳をもった平凡な少年

とは逆に、このシンクの今現在通っている場所はふつうあり得ない

‘ベランダの塀’

普通はないだろうが、この少年は実は全国青年アスレチック競技の

空中のシンクはどうしようもなくその穴に落ちていく。

そしてそして……少し遠い場所、海鳴市

「……ユーノ君、今なにか感じなかった？」

白い制服を着た小さな女の子が肩に乗った小さなフェレットに話かけた

「うーん……気のせいかと思うよ。レイジングハートも反応しないんだし」

少女の名前は高町なのは。

肩に乗っているのはユーノ・スクライヤ。このフェレット、実はれつきとした人間の男の子である

一か月前、平凡な小学3年生だった彼女はユーノと出会った

ユーノは異世界から来た魔導師である。

彼は自分が発掘した古代の遺留品‘ロストロギア’であるジュエルシードを次元世界を管理する時空管理局へ届けようとした際、事故によりなのはのいる世界である地球へと散らばったのである

そこで彼女は偶然にも回収に来て気絶していたフェレット状態のユ一ノと出会い、彼が持っていた赤い水晶レイジングハートを使い魔法を手に入れた。暴走し手に入れた者の欲望をかなえるジュエルシードを回収していく内に、なのはは同い年の1人の少女に出会った同じく魔法を使い、母親のためにジュエルシードを集める少女の名前はフェイト・テストロッサ

母親のために・・・ただ母さんの為に

回収するなのはの前に立ちはだかるフェイト、互いに戦い、そして暴走してしまったジュエルシードが次元震を引き起こした。管理局に知られ、ほとんどのジュエルシードがなのはと協力した管理局の手にあった。

怒る母親、気を遣うフェイトの使い魔・・・

再び戦う場を得た二人の小さな魔導師。なのはは無垢な自分と似たような境遇の彼女に優一、大切な魔法の言葉を口にする「友達になりたいんだ」彼女はそれに答えることもできず・・・

決着をつける戦場の最中、フェイトは母親との思い出が頭にフラッシュバックする

自分のはずなのに、母親は違う名前であらしく自分に語りかけてくるなのはの全力の攻撃でフェイトは敗北した。その時、次元を越えて攻撃してきた母親の攻撃で本拠地を特定した管理局は母親を拘束しようとした。そこで真実を知った

フェイトは母親の娘のクローンであった。

娘と似ているのは外見だけだと、大嫌いだと、フェイトはショックを受けた

次元の向こうにある伝説の都へ旅立とうとした母親を止めようとなのはと管理局は本拠地へ乗り込んだ

フェイトは本当の自分を始めるために本拠地でなのは達と協力し、

母親の元へ到着するも母親と自分の姉ともいえる存在の少女を入れた生命ポッドは次元の狭間へ落下していった

すべてが収まったころフェイトは裁判の為に管理局へと旅立った。名前を呼び合い、本当の友達となったなのはとフェイトはしばらくの間、別々の道を歩みだした

そして、なのはは終業式の日の帰りに何かを感じ取った。

「気のせいなのかな・・・あれ？」

なのはの目の前に、一匹の犬がお座り状態で待ち受けていた。

「わあゝ、可愛い犬！」

ユーノはなのはの肩から降りる

なのはは犬に近寄り、頭をなでる

「見かけない犬だけど・・・ん？」

犬がなのはの足元に前足を向ける。そこには小さな短剣が突き刺さっていた

キラッ！

剣の中心にピンクの陣が発生する。

「ふえ・・・!?!」

「なのは・・・!!」

ユーノは走り出すが、なのはの足元に穴が発生し彼女はそこに落ちていく

犬はユーノに向かって前足をあげて挨拶すると、穴に入る

「ま、待てッ・・・!!」

ユーノは穴に入ろうとするが、陣はそのまま小さくなって消えた。

「な、なのは・・・」

シンクは落ちていた。どこかの空を落ちていた

悲鳴をあげながら地表へ落下していく
すると、ピンクの光に包まれゆつくりと地表に落下した
頭をさすっていると

「あの・・・」

「え・・・」

目の前には女の子が立っていた。

ピンクの髪にどこか古めかしい服装で頭に耳と尻尾が・・・

「しっ、尻尾・・・」

「あの・・・召喚に答えてくださった 勇者 様でいらっしやいますね。」

「ええ？あの・・・」

シンの隣に先ほどの犬が降りてきた。

その犬は女の子の隣に近寄り、女の子はその頭をなでる

「ありがと、勇者様を連れてきてくださって・・・」

「ワンツ・・・!!」

犬が空を見ながら、吠えた

「にゃあああああああああああ――――――
!-----!」

空の方で叫び声が聞こえてきた。シンクとピンクの髪の子はその声に反応し空を見上げる

「お、落ちる――――！！！！！！」

なのは叫びながらシンクと同じ状態になっていった。
やがて地表に……………

「いたたた……………」

シンクの後ろの落ちた

「あ、あれ…………ツマキ？あ、あの子は…………？」

犬、ツムマキに問いかける女の子。犬は吠えるだけ

「えーと…………とりあえず、大丈夫ですか？」

落ちてきた女の子、なのはに話しかけるシンク

「にゃー…………だっ、大丈夫です」

なのはは額をさすりながら起き上がる。

「あの、お二人とも!!」

ピンクの髪の子は戸惑いを振り払い、期待全開の眼差しで二人を見つめた

「申し遅れました、私はこの世界フロニヤルドにある国『ビスコッティ』の領主、ミルヒオーレ・F・ビスコッティフィリアンノと申します。」

彼女、ミルヒはその期待の眼差しと生えている尻尾を振りながら、二人に挨拶する

「えと、シンク・イズミです」

「た、高町なのは……です」

その時、どこからともなくドンドンと花火みたいな音が響いてきた。ミルヒはその音に反応し「大変!!」といいながら二人の手を引っばってその場を走り出す

「戦が始まってしまいます。さあ、このセルクルに乗ってください
!!」

二人の前にちよつと可愛い大きな動物が

「ふえゝなんかゲームに出てくるような生き物」

「そつ、そつだね」

「お二人ともセルクルを見るのは初めてですか？」

「ああ、はい・・・僕たちの世界にはいないもので」

シンクとなのははお互いが地球の出身だと知る

セルクルに乗る三人、するとセルクルが走り出し崖から飛び出し羽を広げ空を飛ぶ

「今、我が国ビスコッティは隣国ガレットからの侵略を受けています。戦続きの我が国は――――」

城に着くまで二人はこの世界のことを色々聞かされた。

戦・・・二人の世界では殺し合いの戦いということだが、この世界での戦は国と国との興業として行われ殺し合いではなくアスレチックな戦いである。だから戦では死ぬというのはあまりに少ない

―城―

「あわわわっ・・・まずいであります、まずいであります」

オレンジの髪をした小柄な女の子は双眼鏡で戦状況を見ていた。アスレチックの戦場を駆け抜ける隣国のガレット獅子団はビスコッテイの兵士をくぐり抜け、どんどん城に向かってくる

「姫様はまだかいの？」

隣の老議員が動揺する。そして三人の乗ったセルクルが城に到着する

「時間がないので大急ぎでお願いします！！」

ミルヒと二人は城の中を進む。メイドの何人かがシンクとなのはの荷物を預かる。

「姫様、用意は済んであります。」

1人のメイドがミルヒに話しかける。

「ありがとう。こちらの男の人に用意した服を・・・」

メイド隊が戸惑うシンクを連れて行く。

「あとこの子に騎士服を・・・」

なのははミルヒを見た。

「あの、お姫様・・・」

なのははミルヒに自分は大丈夫というと

「騎士服みたいな服を持っていると・・・？」

「はい」

「さあーって、やって参りました！！今日の戦場はビスコッティの領内、フィリアンノ城付近となります。実況は私、ガレット国営放送のフランボワーズ・シャルレーがお送りいたします」

浮遊する実況席の中でフランボワーズがテンション全開で実況していた。

城の中でミルヒはシンクとなのはに戦場での詳しいルールを説明した

「じゃあ、勇者様出陣です！！」

ミルヒの実況と共に、戦場の柱に騎士服に着替えたシンクがマントを払う

「勇者シンク、ただいま見参ッ．．．！！！！」

シンクはミルヒから預かった指輪、聖剣パラディオン．．．を棒に変えた物を構えた

「そして、実はもう一人いるんです！我が国にお招きしたもう一人の勇者様、どうぞ！！」

ミルヒの実況と一緒に、上空からピンクの羽を足に生やした魔法少女 高町なのはがバリアジャケットを装着して降り立った。

「どうも、もう一人の勇者の高町なのはです．．．！！」

さてさて、この物語．．．一体どんな展開が起こるのか

紋章と魔法（前書き）

シンクは目を輝かせていた。

今まで自分の力を全力を出せるところがなかった

それが叶う

心が躍る・・・こんなにも

「いづくぞー！ー！ー！！」

シンクはそんなことを感じながら戦に参加した

なのは少し戸惑うが、魔法の練習や大切な友達に追いつくぐらいの力量も持ちたいと胸に秘めながら

「いくよ、レイジングハート！！」

《はい、マスター》

紋章と魔法

勇者出現の報告はすぐ戦場に動揺を走らせた

「うおーすげ、本物の勇者だ!!」

ガレットの中でも同じだった

「勇者倒したら俺たち凄くないか!!」

「よっしゃ!!いくぞー!!」

3人のガレット兵がシンクに襲い掛かる

「ふっ・・・!!」

棒術も使えるシンクは相手の動きを読み横によけて一撃をくらわす。すると、一撃を受けた兵が煙に包まれ小さな丸い生き物に変わった

「にゃうー!!」

けものだま

この世界ではフロニヤ力というものがあり、戦でダメージを受けた際に変身し、一時的に行動が無力化された状態の姿である。その名の通り、その名の通り毛玉に顔と獣耳・尻尾がついているガレットの場合は「ねこだま」ビスコッティの場合は「いぬだま」となる

「デイベインシューター、シュート!!」

なのはの周りにピンクの魔力が4つ現われ、それをガレット兵に向かって撃つ

「なっ!! - - - にゃう」

驚いた兵はだま化した

「この世界でも、一応魔法は使えるみたいだね」

《そのようで》

レイジングハートは笑ったように答えた

二人の登場から早3分

ビスコッティ側の撃破数が急激に変化を始めた

「えっ? ええ - - - !!? はっ、速い - - - !!」

実況のフランボワーズが、隣にいたガレット側將軍、そしてガレット領主の側近の女性は驚いた

「こ、これは幻でしょうか!? 勇者の出現からたったの3分でガレット側の撃破数に追いつきはじめました!! 勇者のお二人、一体なものだ - - - !!」

だま化するにあたって戦でのルールは簡単、ダメージを与えるか、頭、背中に触れるかだ

そして肝心なのはフロニヤ力を利用する紋章術というものだ。

騎士級や領主はもちろん、紋章というのはだれでも持っているが使い方しだいでは武器にも技にもつかえるすぐれた技術だ

二人は前線にいるビスコッティ騎士団でありミルヒの直属親衛隊隊長と合流することだ

なのはより先にシンクが合流していた。

「おつす！姫様に呼ばれた勇者、シンク・イズミです。よろしくお願いします！！」

「あ、ああ・・・」

親衛隊隊長、緑の髪の子 エクレール・マルティノッジ

「同じく、高町なのはです。」

「さっきのビームみたいなのどうやるんですか！？」

期待の眼差しでエクレールを見るシンク

「はっ？ビー・・・紋章砲の事か？」

「そうそれ！！姫様からは説明されたけど使い方は聞いてくれて」

「私もです！教えてください！！」

「わかった！わかったから一辺に言っな！！」

怒鳴るエクレ

短い二刀流の短刀を構えながら前から来るガレット兵の集団をみる

「まずは紋章を発動！！」

エクレの手に緑の紋章が浮かぶ。横に並ぶシンクとなのは

「紋章発動レベル1ッ！！」

シンクの手の甲にオレンジの紋章が浮かび上がる

「えと、紋章発動！！」

なのはの足元に砲撃魔法陣に加え、シンクと同じく手の甲にピンクの紋章が浮かび上がる

魔法と違って、この紋章を使えば辛い砲撃を簡単に撃ち出せる。レイジングハートとなのははそう判断した。さっきも紋章は使えたが、主に使うのはやはり魔法が一番だ。

「そして、レベル2！」

「「レベル2！！」」

三人の紋章が背後に浮かび上がる

そしてーーーーー

「レベル3!!」

紋章が自分を覆うほどに大きくなった

「力を込めて、前に打ち出す。それが紋章砲!! まずは男勇者からだ!!」

「いつけーーーー!!」

シンのオレンジの紋章砲が放たれ兵が次々にねこだまに変化していく

「じゃあいきます! デバイーーーーンバスターーーーー!!」

カノンモードのレイジングハートからピンクの紋章砲が放たれる。
魔力砲撃よりなんか過激だ

「なっ、なんだとーーーー!!」

兵たち予想外の砲撃に驚くも回避は不可能

ドーーーーーッ!!

「にゃううううううう!!」

「なのは! めっちゃくっちゃ凄い!!」

「あははは・・・こんなにすごいなんて自分でも驚きです」

ーガレット本陣ー

「うむ、なかなか面白い勇者だな。どーれ遊んでやるかの」

そしてすぐその人は現われた

「なんじゃ、一緒なのは垂れ耳と勇者二人か」

黒いセルクルに乗った銀髪の女性がやってくる

「なっ！？レオンミシエリ様！！」

「「ええ！？」」

銀髪の女性はレオンミシエリ・ガレット・デ・ロワ

ガレット獅子団領主にして武勇に優れ、師子王とも称される

エクレの「様」つけに対し、レオは

「様ではない！閣下と呼ばぬか！！この馬鹿者が――！！！！」

にやっと笑ったレオ閣下の背後に紋章がでかかと浮かび上がる

ちなみに今は「閣下」と呼ばなければ怒ってしまう

紋章と魔法（後書き）

次回予告

「さあ、チビ勇者よわしの一撃を喰らえ！……獅子王炎陣ツ
！」

「ふえっ！？む、無理ですよー！！！」

「帰れない！僕たちは帰れない……」

「あ、ユーノ君？私、なのはだよ。……うん、大丈夫だよ」

次回 帰れない！？でも帰れるかも！？フロニヤルド

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0004x/>

DOG DAYS～勇者少女の物語～

2011年11月16日16時01分発行